

課題名

40. ビワ施設栽培における品種と果実肥大、成熟

成果の概要

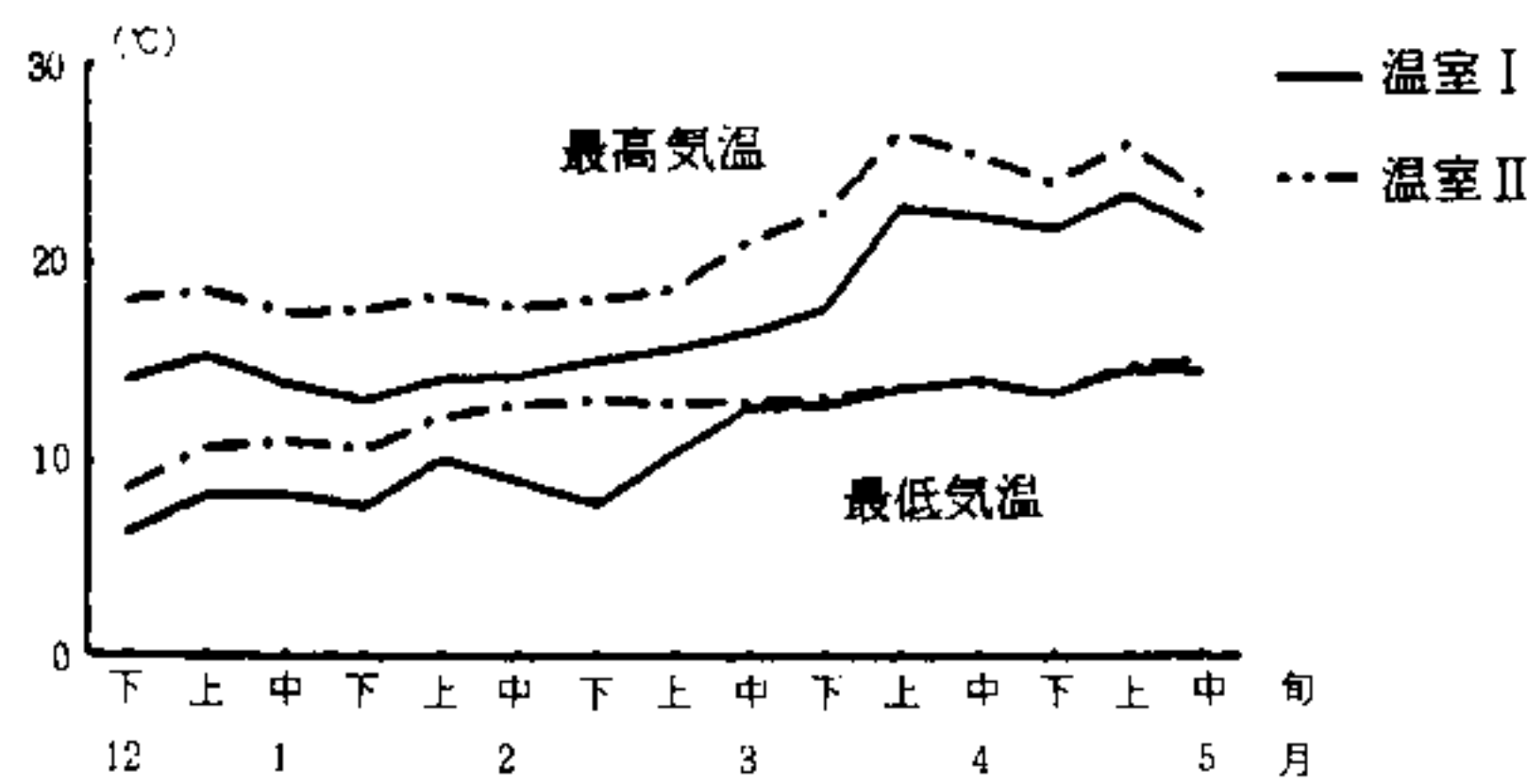
温室 I

- (1) 開花から収穫までの日数は、開花が遅い花ほど短くなった。
- (2) 開花から収穫までの日数の品種間の差は、長崎早生と茂木では開花が遅いほど短くなる傾向があり、茂木と福原早生では長くなった。
- (3) 長崎早生が茂木に比べ、糖度が高く、果肉硬度が大きかった。
- (4) 2月10日調査時の縦径は、茂木、福原早生はほぼ同じで、長崎早生がやや小さかった。横径は福原早生が大きかった。肥大率は、縦径横径とも福原早生が大きかった。長崎早生は、茂木、に比べ縦径の肥大率が大きく、横径についてはほとんど違いはみられなかった。

温室 II

- (1) 最高気温15~25℃、最低気温10~15℃で推移した場合、開花から成熟までの日数は長崎早生で123日、茂木で133日、福原早生は142日であった。
- (2) 糖度は長崎早生がやや低かったが、果肉硬度にはほとんど違いはなかった。
- (3) 長崎早生は、茂木に比べ横径の二次肥大開始時期が早かった。福原早生は肥大率が大きく、特に横径の肥大率が大きかった。

成績概要



ビワ温室内気温の推移 (II)

表1 品種及び開花時期の違いと果実形質の関係

気温変化	品種	開花期	開花～ 収穫	縦径	横径	果実重	糖度	果肉 硬度	種子数	種子重
		月/日	日	mm	mm	g			個	g
成 績	長崎早生	11/20	161	50.8	39.0	40.8	13.0	187	3.2	6.5
		/30	156	51.5	39.6	41.2	13.5	180	3.3	6.8
		12/10	143	51.7	39.6	40.7	13.1	175	2.6	5.9
	温室Ⅰ 茂木	11/20	174	51.5	42.6	51.2	19.2	135	3.7	9.5
		/30	166	55.0	41.0	46.0	10.5	127	3.2	8.7
		12/10	151	57.7	43.5	52.1	11.1	117	3.3	6.8
	福原早生	11/20	174	59.4	51.5	84.2	11.4	150	5.7	19.1
		/30	169	59.4	52.1	86.4	10.8	207	5.3	18.1
		12/10	161	61.3	51.8	86.8	10.8	143	4.5	16.1
温室Ⅱ	長崎早生	12/20	123	52.4	40.4	42.6	11.7	175	2.7	6.8
	茂木	"	133	57.1	40.4	44.2	12.2	169	2.4	6.8
	福原早生	"	142	61.6	51.5	81.9	12.6	174	4.3	14.9

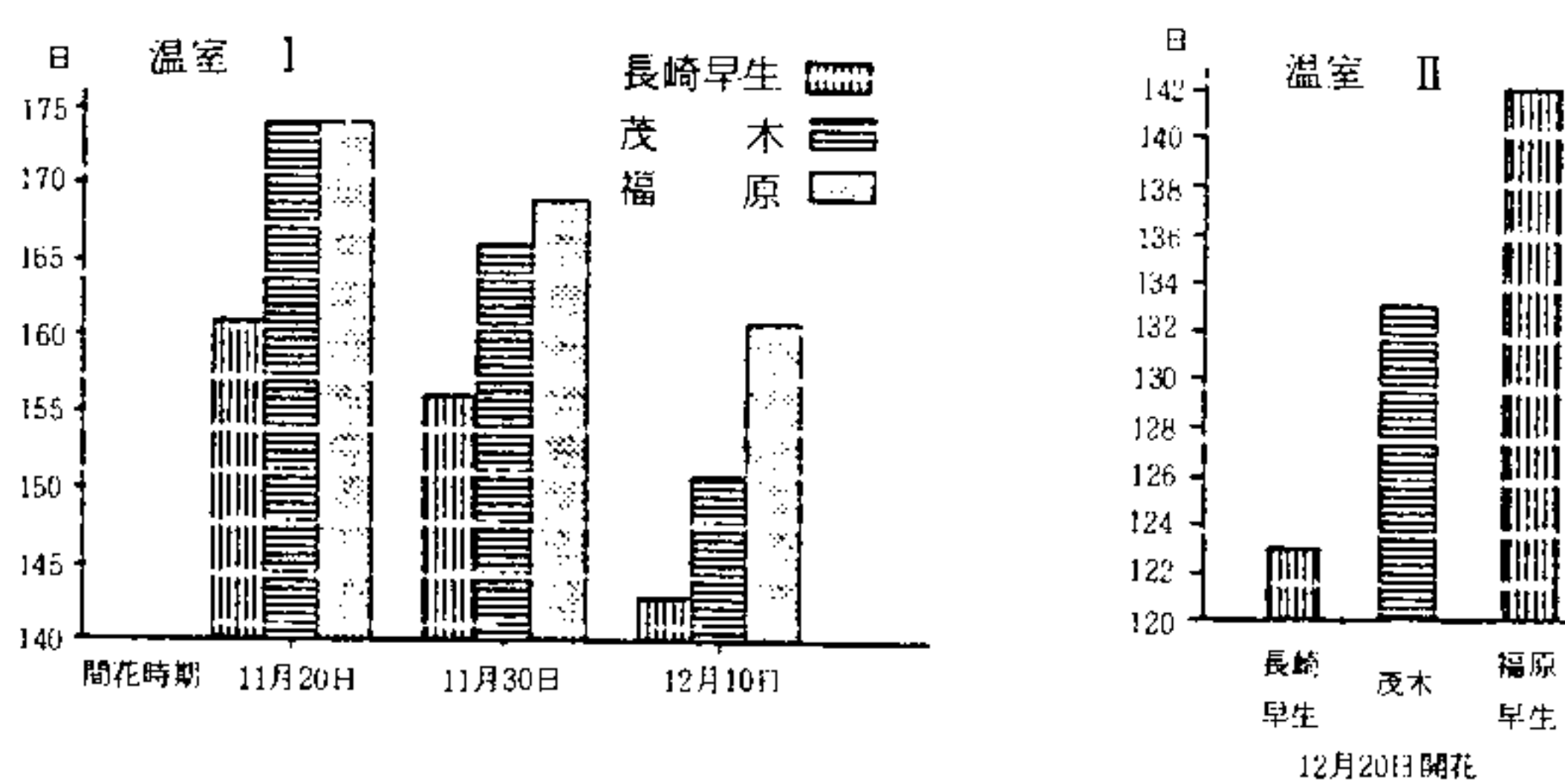


図1 ビワの品種及び開花日と開花から収穫までの日数

(果樹試験場)

普及上の留意点